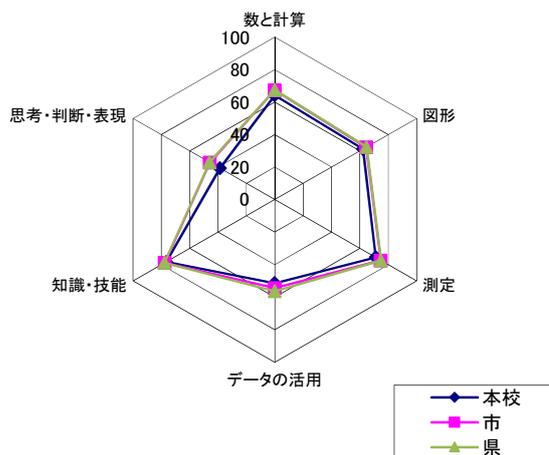


宇都宮市立宝木小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	64.2	67.3	67.4
	図形	62.2	64.5	64.7
	測定	71.1	74.7	74.9
	データの活用	51.4	54.4	56.4
観点	知識・技能	76.6	77.6	77.8
	思考・判断・表現	38.6	45.8	46.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、県の平均と比べて低い。</p> <p>○分数のたし算に関する設問では、正答率が9割を上回った。また、3けたのたし算に関する設問では、9割近い正答率になった。</p> <p>●整数-小数第一位の設問では、正答率が38%で県や市の平均よりも10.8ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小数や分数などの基礎的な計算の仕方の定着を図るため、朝の学習の時間を活用して復習したり、AIDリルで当該学年以前の学習内容に取り組んだりする。 ・文章問題を読んで立式することに苦手意識をもつ児童が見られるので、文章から立式に必要な言葉を見つける活動を引き続き行っていきたい。また、問題場面を想像できるように指導していく。
図形	<p>平均正答率は、県の平均と比べて低い。</p> <p>○二等辺三角形を作図する設問では、正答率が87%で県や市の平均よりも3ポイント以上上回った。</p> <p>●円の半径と直径に関する設問では、正答率が76.9%で県や市の平均よりも4.4ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・図形の作図の仕方を学習する際には、さまざまな条件で正確に描けるように指導を行う。 ・円や球の半径や直径、中心などの基本的な用語と意味を理解することができるようプリントやAIDリルを活用して復習する。
測定	<p>平均正答率は、県の平均と比べて低い。</p> <p>●はかりの目盛りを読み取り、重さを答える問題の正答率は、44.4%で県の平均よりも6.7ポイント下回った。</p> <p>●身近な物の重さの単位に関する設問では、75%と県や市の平均よりも5.6ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な物の重さや長さのおおよその見当を付けることができるように、体験的な学習を授業で取り入れ、日常生活と関連付けて理解が図れるように指導を行っていく。また、目盛りの読み方の習熟を図るために、1目盛りの大きさの異なるはかりを用いて重さを測るようにする。
データの活用	<p>平均正答率は、県の平均と比べて低い。</p> <p>○棒グラフに関する設問では、正答率が9割を上回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・グラフの値の読み取りでは、1目盛りの大きさが1以外のグラフや2つの棒グラフで1目盛りの異なるグラフなど様々なグラフの読み取りを行い、習熟を図っていく。